

# こんなはずではなかった。 地域政党「都民ファーストの会」の 音喜多駿都議と上田令子都議が 離 党。

音喜多氏と上田氏は小池百合子東京都知事として初登庁した時に、お出迎えした時の3人のうちの2人。党の新代表に小池氏元秘書の荒木千陽都議が決まり、小池氏ら党役員だけで決めたことが問題としている。

「情報公開」や「内部統制」など「都民ファーストの会がブラックボックス化している」と暴露し執行部を批判。

「言論統制、取材規制も行われた。メディアに出ることは事実上禁じられ、議員個人の自由な意見を述べることもできない」「今の東京都には豊洲移転問題、オリンピック・パラリンピックと様々な課題が山積み。この状態で国政進出に手を伸ばすことは正しいのか」

小池都知事が都議選の直後『都知事職に専念するから』と言って退任した。

ところが、すぐに国政政党を立ち上げて自ら代表に就任。

◆「いま都民がなにより望んでいることは、都政に専念してくださる東京都知事存在ではないでしょうか」

■上田氏「政調会長から『質問してはいけない』と言われた」

上田氏は地域政党『自由を守る会』代表を務め、小池知事が知事選に立候補を表明した際にはいち早く支援を表明。『自由を守る会』は所属議員がいたにも関わらず、再三再四にわたって『都民ファーストの会』から解散要請をされ解散した。二元代表制を軽視する運営があった。

「政調会長から、文書質問と公的な資料要求はしてはいけないと言われた」

「会派と人事については事後報告だった。「荒木代表」のほか「政調会長」、「事務総長」人事を報道で知った。メールでの通達があった。

上田氏は、党の資金集めの方法につ

いて「各都議からは毎月、政務活動費15万円、党費6万円が徴収される。毎月15万円、55人で1000万円近い政務活動費は血税。説明もないのは、まさにブラックボックス。

「10月14日に『都民ファーストの会』の政治資金パーティーがある。1枚2万円、各議員の実績によるノルマも課されている」

「(上田氏の地元)江戸川区の平均収入は400万円。2万円のチケットの政治資金パーティーはしたこともない。誰に一体売ることかという思い。政治資金パーティーはかねてより企業団体献金、外国人献金の隠れ蓑との指摘もあり。そのあり方事態が問われなければならなかった

はずだ」

都民ファーストを離れる音喜多氏と上田氏は、あらたな会派「かがやけTokyo」を結成する。

### ■「都民ファーストの会」とは？

同会は1月に結成された東京の地域政党。当初の都議団メンバーは、2016年夏の都知事選で小池氏を支援した上田、音喜多両氏ら3人。音喜多氏は当初、幹事長だった。

その後、小池氏が代表に就き、7月の都議選で55議席を獲得、都議会の最大会派に躍進した。都議選後、小池知事は代表を退いた。現在は小池氏元秘書の荒木千陽都議が代表を務める。



音喜多駿都議(左)と上田令子都議(左)

小池百合子先生は国会議員としてすでに終わっていた。その寝た子を起こしたのが舛添要一東京都前知事だ。

舛添氏が「都知事を下ろされそうだ」という感触を得て「これぞチャンス」と彼女の中に「希望」ならず「野心」。

### 「野望」の火がメラメラと燃え上がった。

自民党都知事候補として真っ先に手を挙げた

小池百合子先生「自民党公認」を得られそうもないと感じるや、公認申請をサッサと取り下げ、「石原慎太郎先生、石原伸晃親子」を挑発し、敵対構造を作って「おじさん政治」の終焉を引き合いに出して「都政を変えなければいけない」と嘯（ウソブ）き 東京都民の注目を引き付ける。

自分を「善玉」、対抗軸の相手は「悪玉」という構図に置き 一気に呵成に打倒する。

小池百合子先生のこのやり方は短期戦には非常に効果的だが、一生懸命努力をする本格派でないために、長期戦には向かない。◆底が浅いので選挙の効果、効能は賞味期限が1~2か月と短い、のが特色だ。

小泉純一郎元総理大臣の「自民党をぶっ壊す「郵政選挙」の構図がぞだ。

小池百合子先生の思惑は「東京都知事」を踏み台にして「国政に攻め上り」日本国を手に入れることにある。

「野望」とは本来そういうものだろう。

安倍晋三首相に代わって日本初の女性総理大臣になること。

総理大臣になるためなら何でもする。「女性初の総理大臣」それが目標なのだから困ったもの。

普通の人間なら、「何かを実現したい」から、「政策を実現する」ために総理になりたい、と考える。

ところが小池百合子は実現したいものが何もない。「民進党」時代の「菅直人総理」がそうだった という。

しかし、「小池百合子先生の最終ゴールは総理大臣になること」なのだから、始末が悪い。

だから「東京都都知事」職など小池百合子先生にとっては「踏み台」にしか過ぎない。

小池百合子先生にとって「東京都都知事の職は通過点」なのだ。だから、初めから都政には関心がない。

何より証拠に結果を出さず、1年半になろうとしている。

緑色を「百合子グリーン」などと呼ばせて「都知事選」を圧勝。

次に、「豊洲問題」を持ち出し、日本共産党の調査で「毒性の強い水がア」と不安をあり、議会も通さず「豊洲移転」を個人的にストップさせて最終的には「豊洲に移転する」が「築地も食のテーマパークにする」という。

彼女の上手なところはマスコミの動かし方で、理詰めではなく、その場その場での感覚（フィーリング）で動く。

質問されても「ひらりひらり」と言を左右にかわしてはぐらかす。

その様は言い寄る酔客を受け流して、コナコナにしてしまう銀座の「百合子ママ」のようである。

また「豊洲は安全」でも「安心ではない」とわけのわからないレトリックを使ってなんとなくその場を取り繕ってしまう。

その余力で「都民ファースト」の会の素人さんたちを当選させ、就職を決める。国会議員なみの高級取りの皆さんから上納金を毎月召し上げても当選させてくれた小池百合子都知事に反旗を翻すわけにはいかない。